

お聞かせください

避難生活の中で感じていること、困っていること。除染や賠償、村の事業などについて聞いてみたいこと。ジャンルは問いません。皆さんの声をお聞かせください。



大槻 ゆう子さん(大倉)

避難指示解除の話が出てきています。高齢者の帰村が多いのではないかと思います。税金や医療費などはどうなりますか。また帰村後に出る片付けごみの処分はどうなりますか。

現在も各種税金は課税されており、避難指示によって、そのほとんどが免除をされているという状態です。したがって、避難指示解除後は、免除がなくなりますので、全ての税金の支払いが始まります。また同様に、これまで免除・補助が行われていた、介護保険料、上下水道料、家賃、医療費などの負担も発生します。村では、暮らしの再生が徐々に実現できるよう、避難指示解除後の生活支援制度の充実などをかねてより国に要望しています。

また、避難指示解除後の片付けごみの収集は継続して実施する他、家庭ごみの回収も避難前と同様に行います。平成30年3月には、村独自の焼却炉も小宮クリアセンター内に完成する予定です。

川原田 陽一さん・幸子さん(長泥)

(長泥行政区研修会及び交流会にて)長泥に家を見て北海道から移住して2年ほどで被災。現在は北海道にいますが、村にいる間親交があった皆さんに会いたくて、毎年参加をしています。



「村に移住した時、皆さんにやさしく声をかけてもらい、家の行き来もできるようになっていた矢先の避難でした」と川原田さんから聞いた後、同じ会場で、隣家の方が「川原田さんが遠くから来てくれて話ができてうれしかった」と話していました。交流の機会の大切さを改めて感じたところです。

村は現在、避難先でのコミュニティ活動の支援と並行し、村にいたころの地域活動やサークル活動などにも支援を行っていますが、村民同士の絆を深める交流や研修への補助金制度は、避難指示解除後も継続される予定です。また、避難指示解除後は、避難先で交流した村民同士の「同窓会」などの開催費用も支援できるよう検討を進めているところです。さらに、文化祭やスポーツ交流など、村民がつながる事業も継続し、建設中の飯舘村交流センター(旧公民館)なども交流の場として積極的に活用してまいります。

いいたて 歳時記

ならわしや季節のあれこれ

その⑦

「山御講」と「小午田講」

「山御講」は、旧暦の10月15日から17日の間に行われ、地区の講ごとに山仕事の安全祈願をしました。男の人だけで、餅をついたり料理をしたり。最後に山盛りのご飯を食べ切らなければならぬ地区もありました。女人禁制の祭りでした。

一方の「小午田講」は、旧暦の3月12日と10月12日に、若い婦人が集まって行う女の人だけの祭りです。子どもが授かるようにと、お産に係る人なども参加しました。もち米を持ち寄り、あんこ餅や豆腐餅などをこしらえました。

参考:「おばあちゃん、おじいちゃんの知恵袋」
村教育委員会発行



おくやみ

氏名	年齢	行政区
高野 久次郎	103	関沢
小林 ミツ子	92	小宮
吉田 清	96	伊丹沢
木幡 シチ	91	伊丹沢
齋藤 久一	84	深谷

ご冥福をお祈り申し上げます



誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
大久保 昊くん	昌紀・亜季美	大久保・外内

すくすくと元気に育ってね

(9月17日から10月20日までに届け出のあったものを掲載)
*この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。



編集後記

「若い世代が村に戻らないで誰が村を守るのか」「高齢者をひとりにしてはいけない」「村復興について考える時間」に村中学生から出された言葉に胸が熱くなりました。避難先で生活する子どもたちが「ふるさと・飯舘村」を直接感じる機会はその多くはないかもしれませんが、しかし、子どもたちの心には村をままでに思う気持ちがあります▼未来のことは誰にも分かりませんが、村のこれからを思うとき、明るく楽しいことばかりではないでしょう。それでも、前を向いて一歩一歩、気の合う仲間と笑いながら、時には休みながら、歩み続ける村民の皆さん。一人でも多くの笑顔を伝えられる広報紙を作っていかなければならないと思っています。(木幡)